

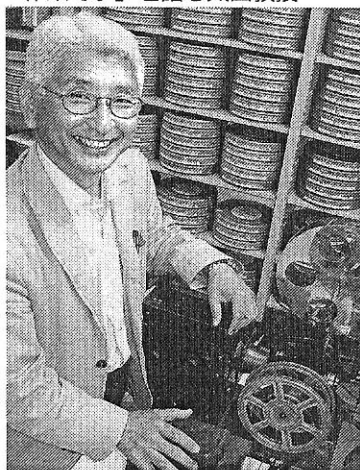
太田教授らは収集を始め

下に置かれたまま50年以上経過すると、加水分解(ヒネガー・シンドローム)して組織が破壊され、劣化が進む。その結果、フィルムがベタベタになって固まって、映写機を通せなくなると、もう救えない可能性がある」と。太田米男・大阪芸術大学教授(映画史、映画復元)は残念そうに見つめた。

実は今、往年の映画フィルムが消滅の危機にさらされている。同大芸術研究所(河南町)は03年、太田教授を代表者とする「玩具映画および映画復元・調査・研究プロジェクト」を発足させ、これまでに約600本のフィルムを復元してきた。

アセテート製フィルムは、通気が悪いなどの条件

玩具映画の映写機を前に「フィルムの保存・復元は文化を守る作業です」と語る太田教授



放置しておくで癒着、劣化

たり、プリントしてある画像が識別できなくなったりから戦前に、映画館の上映して、再生不能に陥る。実は、だれも気付かないうちに切り売りしたもので、上映時間にして20〜200秒程度の長さが一般的だった。フリキなどで出来た家庭用の小さな映写機と抱き合わせて販売されていた。

程度程度の長さが一般的だった。フリキなどで出来た家庭用の小さな映写機と抱き合わせて販売されていた。

名画が消滅の危機、適切な処理を

所有者は主に裕福な家庭で、近所の人々を集めて上映会が開かれていた。

戦後はGHQ(連合国軍総司令部)の指導により著作権の保護が厳しくなった。復元作業は、収集した

光を浴びることになった。

プロジェクトでは玩具映画だけでなく、新聞社製作のニュース映画や切り売りのニュース映画や切り売りのニュース映画が次々と息を吹き返していった。



太田教授らが復元した題名不詳のちゃんばら映画

登場する大正から昭和初期の時代劇のちゃんばらシーン、関東大震災の発生翌日の様子や榎原神宮の参拝風景などのニュース映像が次々と息を吹き返していった。

中でも、ゴジラやウルトラマンを手がけた円谷英二氏の初特撮作品「海軍爆撃隊(1940年、約60分)」は貴重な作品。長距離空爆の重要性をアピールするプロパガンダ映画で、個人収集家からの寄贈品だが、受け取った時は既に溶け始めており、ギリギリのところで復元に間に合った。また、95年前に撮影された京都・祇園祭の映像も復元され、昨年11月に京都市内で上映された。

ため、流通されなくなった玩具映画は映写機と共に各家庭に大切に保管されており、断片的ではあるものの、結果的に貴重な生き残りフィルムとして脚

フィルムを別の新しいフィルムに重ねて画像を焼き移す、フィルムが既にベタベタしている場合はレンズを通して一度光の像にして、それを新しいフィルムに焼き付けた。冷蔵保存すれば100年はもつ。こうして、尾上松之助や阪東妻三郎が

映画フィルムを復元・保存

【福田隆】

玩具映画および映画復元・調査・研究プロジェクト 太田教授が代表者(ディレクター)を務め、大阪芸術大などの国内外の研究者、民間の映画資料館代表、映像制作会社幹部ら計15人で構成する。今後、ホームページも立ち上げ、復元映像の閲覧やフィルム提供の呼びかけなどを行う。問い合わせは同大映像学科(0721・93・3781)。